

インターバンクの声（2015年4月16日）

ユーロ・ドルが3月に付けた1.04ドル台の今年最安値に再び向かい始めていたこともあって、欧州中央銀行（ECB）理事会の行方を気にする人も多かったが、円の動きが気になる人にとっては、昨夜も弱い内容の発表が続いている米経済指標の結果が気掛りだった。普段は毎月いつも注目される指標ではないが、前日の3月小売売上高が予想を下回ったことで、同じ3月の鉱工業生産や4月のニューヨーク連銀景況指標の結果がどうなるのかを確かめなかったのだ。注目の結果は、米景気の好調さ継続を再確認したかった向きには残念だったが、ニューヨーク連銀指数はプラス予想に反してマイナスまで下落、鉱工業生産は弱めの予想をさらに下回り、米金融当局の利上げ時期見通しを後退させる可能性を高めることになってしまった。ECB理事会後のドラギ総裁が、ユーロ圏経済の持ち直しに言及するようなことにでもなっていれば、ドルの下落はもっと大幅になっていただろう。もっともドル売りに気持ちが傾いている投機筋も慌てた行動を取っておらず、じっくりと今日、明日の米経済指標結果も見てくるだろう。2月や3月に付けた118円台前半を割ることにでもなれば、相場展開は少し変わってくるだろう。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。